



船場 シェアドスペース プロジェクト

船場倶楽部
三好正人
(大阪ガス株式会社
エネルギーソリューション事業部)

1. 対象地区「船場」の概要

1-1. 立地

- 大阪の東西・南北軸のクロスポイント・コアに位置する船場地区は、地区の大半が都市再生緊急整備地域に指定される。
- より一層強力な**国際競争力を有する地域**として大阪の成長を牽引していくことが求められる。

1-2. 歴史

- 1920～1930年代 **「大大阪」の中心地**であった船場
- 江戸時代の城下町の都市基盤を基礎に、大正時代には夜間人口6.3万人をもち、商業、金融、流通、消費、文化、流行の中心として近代化を果たした。



2. 船場の特徴・課題（人口・土地利用・オープンスペース）

2-1.人口

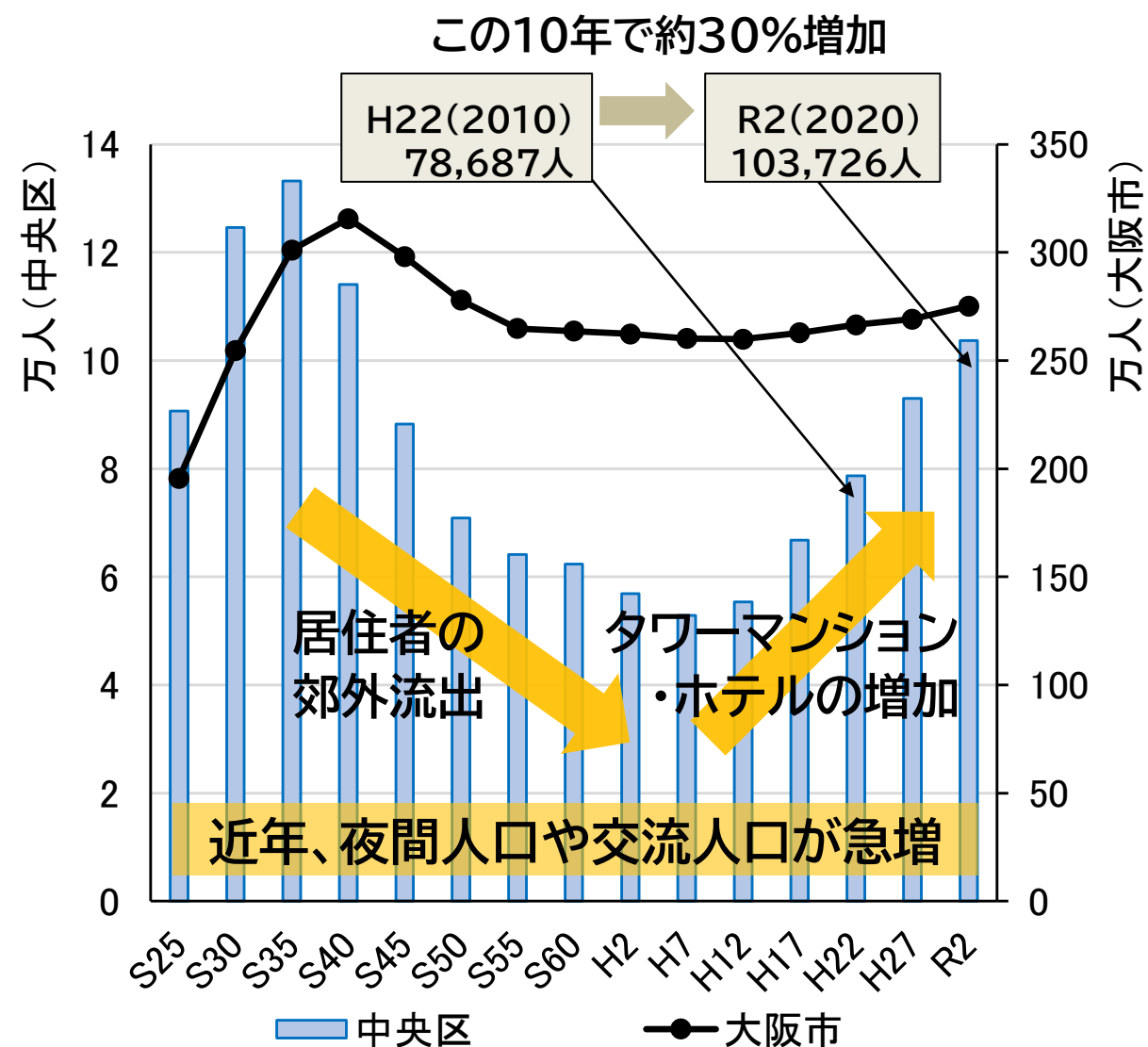
- 中心業務地区として発展する一方、戦後は、居住者の郊外流出により人口・産業の空洞化が進行し、地区活力の衰退。
- 近年、都心回帰の動きが見られ、職住遊が複合する都心として、新たな船場が形成されつつある。

2-2.土地利用

- 近年、タワーマンション・ホテルが増加。



マンション
ホテル
の増加



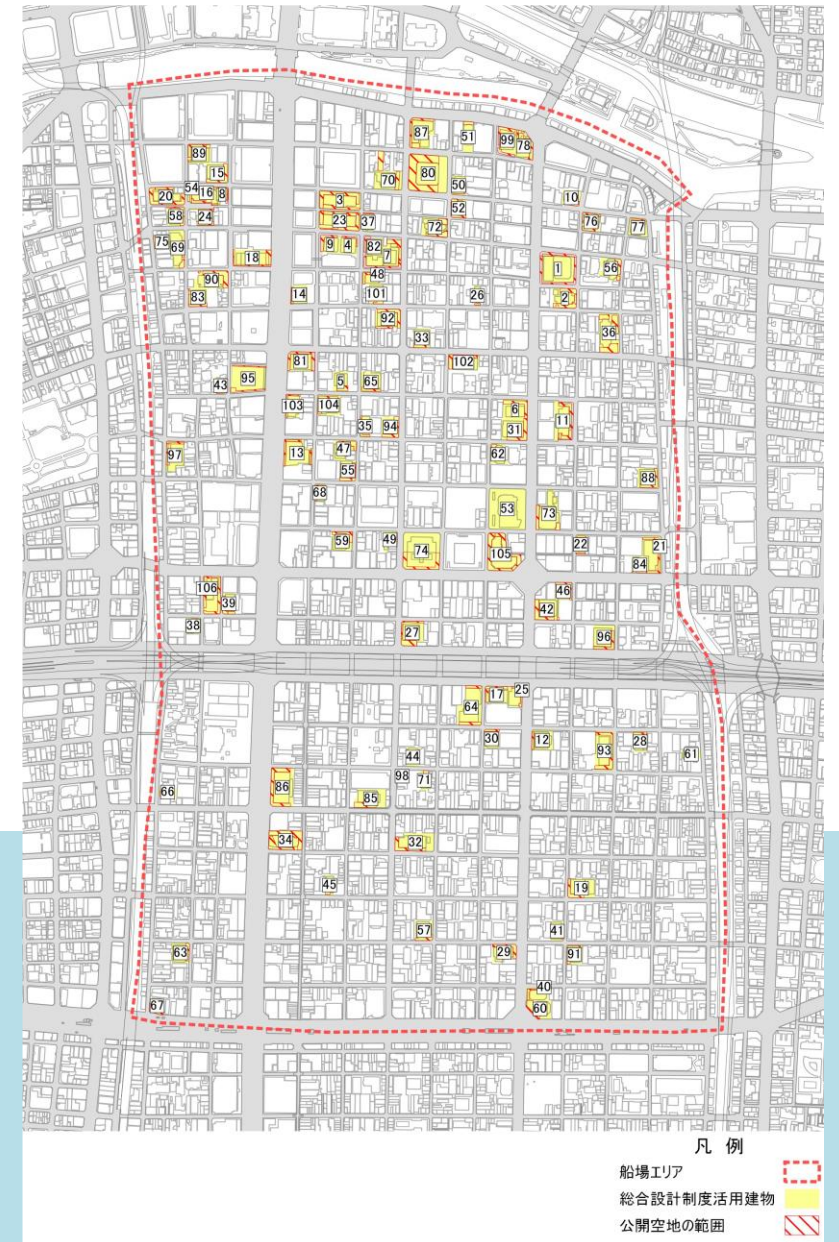
中央区全体人口のトレンド



2. 船場の特徴・課題（人口・土地利用・オープンスペース）

2-3. オープンスペース

- 船場地区内には、**公開空地や船場建築後退線など民地内のオープンな空間が多数存在。**
- 総合設計制度を活用した開発によって、北船場エリアを中心に公開空地が年々増加しているのが特徴的。
- 一方で、**圧倒的に公園が少ない。**



都心回帰 夜間・交流人口の増加

職住遊が複合する“船場”

- 道路空間や公開空地などの**オープンスペースの活用により、豊かな生活・パブリックライフを楽しむことのできる「船場」**にすることが課題。



3. 船場シェアドスペースプロジェクトの取組み経緯

2019年度

シェアドスペース提案

R1



シェアドスペース



完全歩行者空間化



2020年度

社会実験
「高麗橋ストリートパーク2020 フルクローズ」

R2

2020.11/8の1日間

- 官民で構成する「船場まちづくり検討会」創設



2021年度

社会実験
「高麗橋ストリートパーク2021
簡易歩車分離施設による シェアドスペース」

R3

2021.11/18～20日の3日間

- 「船場未来ビジョン(素案)」の作成



2022年度

社会実験
「高麗橋オープンストリート2022
通過交通を抑制したカーブサイドマネジメント」

R4

2022.11/17～19日の3日間

- 「船場未来ビジョン」の策定



4. シェアドスペース提案

2019年度

スーパーストリックでの通過交通抑制とシェアドスペース提案

- 人のための道路づくりとして、①シェアドスペースと②完全歩行者空間化の既存道路の空間再編を提案。

完全歩行者空間化(高麗橋通)

様々な人にとって居心地よい空間



➡ 2020年に社会実験として実施

シェアドスペース(今橋通)

歩行者と自動車が共存できる環境を創出

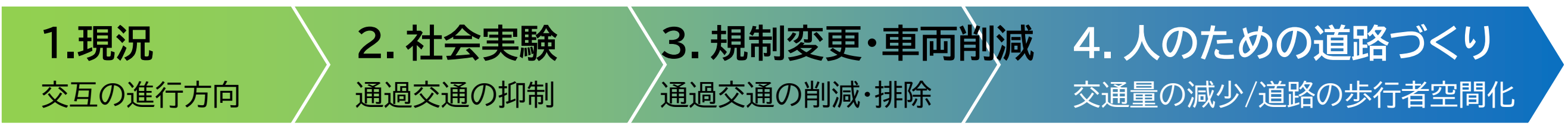


➡ 2021~2022年に社会実験として実施

4. シェアドスペース提案

スーパーストリックでの通過交通抑制とシェアドスペース提案

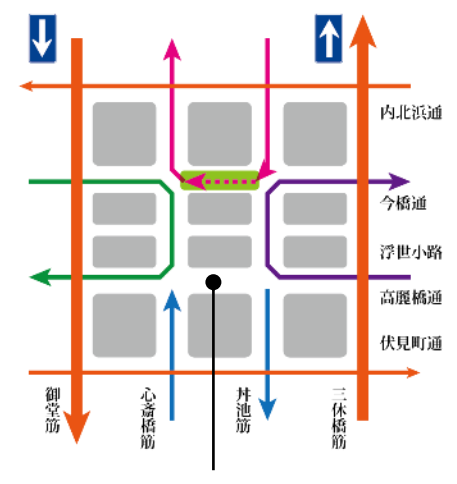
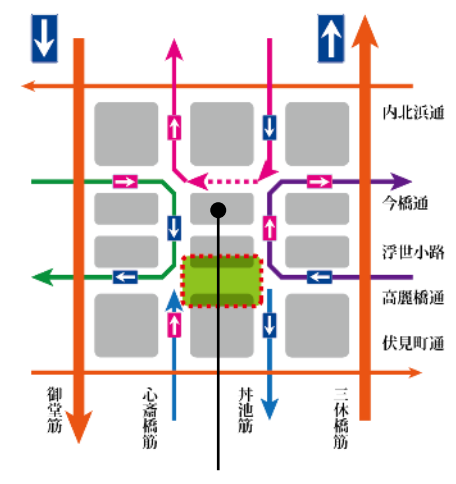
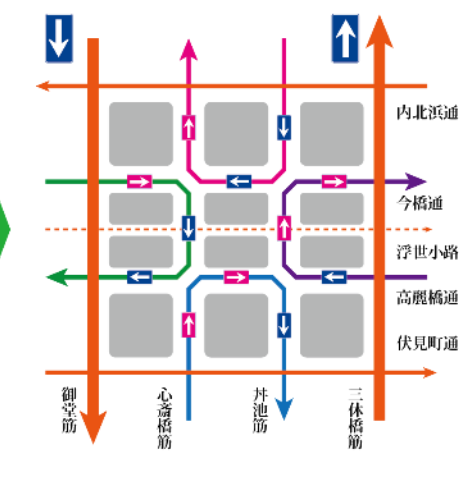
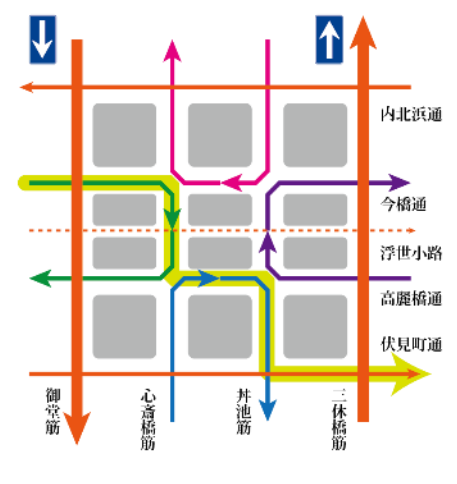
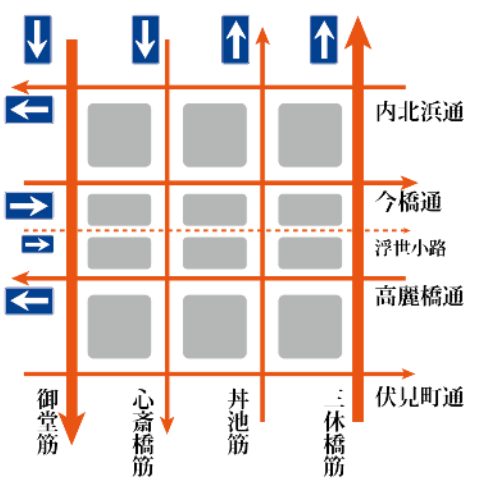
- 空間再編のプロセス、「**社会実験～規制変更・車両削減～人のための道路づくり**」を提案。



船場スーパーストリック計画

完全歩行者空間化

シェアドスペース



人と車の共存

道路の歩行者空間化

船場スーパーストリック計画

- バルセロナの計画を例に、**交通規制をオペレーション**することによって通過交通の削減・排除と交通の効果的な分散を促進。
- 一部車両通行を**規制することによって**生み出された**道路空間**を、様々な人にとって居心地の良い“場”に転換。



5. 社会実験の実施

2020年度

社会実験「高麗橋ストリートパーク2020」～フルクローズ～

高麗橋通1街区をフルクローズ

- 道路空間と民地(船場後退部及び公開空地)を一体的に活用した社会実験
- 天然芝を敷設した車道を滞留空間として、大型パラソルやソファセットなどのファニチャー類の設置を行うとともに、キッチンカーやマルシェ、せんば能や音楽ライブなどのアクティビティにより賑わいを創出。



通常時



実施状況

実施体制	【実施主体】 船場博覧会実行委員会 【占用主体】 大阪府中央区役所
実施場所	市道高麗橋線 約85m(1区画)
実施期間	2020年11月8日(日)1日間 [イベント実施時間]10:00~19:00

5. 社会実験の実施

2020年度

8

社会実験「高麗橋ストリートパーク2020」～フルクローズ～



5. 社会実験の実施

2020年度

社会実験「高麗橋ストリートパーク2020」～フルクローズ～



せんば能 【場所】車道(占用部分)



キッチンカー 【場所】公開空地



マルシェ 【場所】公開空地



ヨガ 【場所】車道(占用部分)

来訪者数1,251 人 東側入場:625 人
西側入場:626 人

- 管理者協議時には、来訪者数は1時間あたり100人弱の600～700人を想定していたが、倍の1,251人が来訪している。

5. 社会実験の実施

2021年度

社会実験「高麗橋ストリートパーク2021 ～シェアドスペース～」

～簡易歩車分離施設による シェアドスペース～

- 車両通行幅員3.0m及び路肩を0.5m確保し、残りの空間をイベント空間として占用、活用するシェアドスペース社会実験を実施。



西側街区

キッチンカー
(公開空地)

オープンカフェ
(道路)

マルシェ
(道路)

①道路空間の利活用

- 車両通行幅員3.0m及び路肩を0.5m確保し、残りの空間をイベント空間として占用、活用。
- 主には、沿道店舗によるオープンカフェやマルシェ、アートを設置。

②民地(公開空地)の利活用

- 公開空地において、賑わいを創出するイベントを実施
- 主にはキッチンカーの設置、ワークショップの開催、音楽・パフォーマンスによる賑わいの創出。
- 民地内を通行帯として利用

実施体制	【実施主体】 船場博覧会実行委員会・船場倶楽部 【占用主体】 大阪府中央区役所
実施場所	(道路)三休橋筋～中橋筋間/中橋筋～難波橋筋間の2街区 / (公開空地)三井ガーデンホテル前
実施期間	2021年11月18日(木)・19日(金)・20日(土) 3日間 〔イベント実施時間〕 平日11:00～20:00 / 休日10:00～20:00

社会実験「高麗橋ストリートパーク2021 ～シェアドスペース～」



道路空間の
利活用

歩車分離施設
(プランター)を配置

車道北側を全面占用

- 車道北側を全面占用し、沿道駐車場がある部分のみ車両通行空間を確保。
- 路肩から占用スペースの1.0m程度は通行帯とする

5. 社会実験の実施

2022年度

12

社会実験「高麗橋オープンストリート2022」

～通過交通を抑制したカーブサイドマネジメント～

- 沿道利用以外の通過車両を規制し、**コモンプレイスとして道路空間と、民地(船場後退部・公開空地)の活用**を行う社会実験。
- 歩きたくなる居心地の良いまちなかのあり方の検証とともに、**民間主体による道路空間のマネジメント**の課題を把握することを目的として実施。



①道路空間の利活用

- **車両通行幅員4.0mを確保し、残りの空間を利活用空間として占有、活用。**
- 区間入口に可動式の柵を設置し、沿道関係の車両及びバイクのみ通行※を促す(区間内は8キロなどの速度制限を設ける)。
※ホテル宿泊者、区域内事務所車両、ホテル・飲食店への運搬車、緊急車両
- 車道通行以外の空間に簡易なテーブルセット等を配置。

②民地(公開空地)の利活用

- 公開空地において、賑わいを創出するイベントを実施
- 主にはキッチンカーやマルシェの設置や音楽・パフォーマンスにより賑わいを創出。

5. 社会実験の実施

2022年度

13

社会実験「高麗橋オープンストリート2022」



車道を全面使用

- 車道を全面使用し、沿道駐車場の乗り入れ以外の空間を滞留空間として活用。

5. 社会実験の実施

2022年度

社会実験 「高麗橋オープンストリート2022」



自主警備スタッフ

可動式の柵

滞留空間

車両通行帯

民間主体による道路空間のマネジメント

- 可動式の柵の開閉
- 流入車両の誘導(併進)
- 自転車の押し歩き声掛け

6. 船場未来ビジョン「オープンマインドコア “船場”」の策定

2023年4月

- 船場の将来像を示すビジョン
- 公民で組織する「船場まちづくり検討会」により策定。



オープンマインドコア “船場” 地域ぐるみの総合的サポート
多様なヒト・リソースを国内外から引き寄せる求心力
船場の新しい価値を創造 1

↓

都心共創地区 “船場”へ
Central Co-creative District

オープンエア空間やストリートレベルでの交流が
新たな価値を生み出す

- 引き寄せられた人と人が出逢い、アイデアを交換・発展・成長し合うイノベーションのまちへと発展させる「オープンマインドコア “船場”」
- 国際的な中枢都市機能集積地である船場を、都心共創地区として豊かな生活・パブリックライフを楽しむことのできる「船場」に。

まちの**コモンプレイス**【共創空間】として開く
高麗橋ストリートパーク2020

<オープンマインド戦略>
船場のオープンエア空間を
コモンプレイス【共創空間】に。

【めざすべき都心像】

Central Business District
CBD中心業務地区から

Central Co-creative District
CCD都心共創地区へ

オープンエア空間や
ストリートレベルでの交流が
新たな価値を生み出す

Central Co-creative District

都心共創地区 “船場”

6. 船場未来ビジョン「オープンマインドコア “船場”」の策定

めざすべき都心像「CCD船場」空間

グラウンドレベル・コモンプレイスを使いこなす

- 1 コモンプレイスを「やってみたい」を受け入れる実験の場に
- 2 豊かな生活・パブリックライフを楽しむことのできる場に
- 3 思いがけない出会い・交流の場に



多様なヒト・リソースを引き寄せ、パブリックライフを楽しめるまちに

6. 船場未来ビジョン「オープンマインドコア “船場”」の策定

モデルプロジェクト「高麗橋オープンストリート2023」

管理者協議中

歩車分離・車両制限のない完全シェアスペースの実現

